

さあ、大学だ！勉強だ！

2

経済学はこう学べ 複雑きわまる世界へ 踏み出した貴方へ

新井 圭太



新井 圭太 (あらい けいた)
経済学部講師。

大阪府出身。Ph.D. (大阪大学)。2001年より現職。講義科目は計量経済学と規制の経済学。主要な研究領域は社会資本投資の効率性・生産性の計測と実証研究。現在は公共交通部門における計量分析をテーマとして取り組んでいる。

[URL] <http://www.1tcue.ac.jp/home/1/arai/index.htm>

経済学はたった一つ概念ではありません。思想等による考え方のアプローチ、歴史(人間社会の営み)からのアプローチ、またはなんらかの市場の一般原則を数理的に追究しようとする近代経済学等、さまざまな考え方が混在している特異な学問体系となっています。

通常の学問であれば、理論体系および実験手法に至るまでの一貫した論理構成がある程度は整備されているのですが、こと人間の行う経済活動の描写・分析となると、それほど単純なフレームワークでは整理しきれないのです。本稿は近代経済学関連に関しての

「経済学の学び方」に関して簡単な紹介をさせて頂きたいと思えます。

◆ 具体的には何を

どう学べばいいの？

通常、経済学部に入學した一年生は「経済原論」と呼ばれる経済学入門クラスの講座を受講することから始まります。本学部においても近代経済学体系の原論講義と、マルクス経済学体系の原論講義と2種類ありますので、(時間の制約はありますが)出来る限り両方の基礎体系を同時に学ぶことにより、経済という生き物に対する体系(とらえ方)の違いを体感

して頂けるかと思えます。また、その後の「登山ルート」として、二年生ではミクロ経済学・マクロ経済学の基礎理論を学ぶことが必須と考えてよいでしょう。経済学における「市場」というものの考え方の基本がそこにはあります。小さな市場を分析するミクロ理論・それらを集積させ国家レベルの経済を対象とするマクロ理論の両輪はきわめて重要です。さらに、三年次になってからゼミ等をベースに、ミクロ・マクロ理論を現実の経済現象に適用させて考える応用分析に入ります。応用範囲としては労働市場を扱う労働経済学、財政支出を考える公共経済学・財

政学、都市問題を考える都市経済学、環境問題を取り扱う環境経済学、国際市場を考える国際経済学、現実の経済データを基に実証分析を行う計量経済学、金融市場を考える金融論など、非常に多くの応用分野が存在します。

◆ これから経済学を

学ぼうとする皆さまへ

かなり手短かな紹介となりましたが、これらの学問体系を学ぶことは楽な作業ではありませんが、貴方も是非この深遠なる世界への一歩を踏み出して、この複雑きわまりない経済という生き物について一緒に考えていきませんか。